



序論

- 第1章 総合計画策定にあたって
- 第2章 粕屋町がめざす未来の姿（基本構想）
- 第3章 前期基本計画の評価
- 第4章 粕屋町を取り巻く社会動向
- 第5章 粕屋町を取り巻く現状と課題
- 第6章 SWOT 分析からみた粕屋町の主要課題

1. 計画策定の趣旨

総合計画は、粕屋町における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための最上位計画であり、今後のまちづくりの方向性を示すとともに粕屋町のすべての行政分野における計画の指針となります。

本町では、2016（平成28）年度から、第5次粕屋町総合計画をスタートし、「心かよいあう スマイルシティかすや」をまちの将来像に掲げ、本町の愛着と誇りが高まり、次世代を担う子どもたちに笑顔があふれる明るい未来を引き継ぐことをめざした取組を進めてきました。

この度、第5次粕屋町総合計画の前期基本計画が2020（令和2）年度末をもって計画期間の終期を迎えたことから、これまでの取組に対する評価と検証を行うとともに、新たな地域の課題、社会経済の変化などを踏まえ、今後の5年間（2021（令和3）年度～2025（令和7）年度）を計画期間とする後期基本計画を策定するものです。

2. 計画策定の基本方針

第5次粕屋町総合計画では、町のめざす将来像に向けて、新しいまちづくりを進めていくために、策定にあたって、次の4つの視点を基本方針とします。

（1）町民にわかりやすい計画づくりと協働で取り組む視点

計画策定の過程を通じて、町民にわかりやすい計画とすることで、町民、地域と行政がめざす将来像を共有できる計画を策定するとともに、成果指標の設定により、総合計画の進行管理を行います。

（2）地域の特性や強みを活かし、活力あるまちを創造する視点

社会経済情勢が大きく変化する時代において、地域の特性や強みを最大限に活かすことで粕屋らしさを輝かせるとともに、まちの魅力を高め、活力あるまちを創造する計画を策定します。

（3）成果を重視した戦略的な行政経営の視点

持続可能な行財政基盤の確立に向けて、経営的な視点で、「選択と集中」による効果的・効率的な施策の展開を図り、行政経営の指針となる計画を策定します。

（4）将来の5万人都市をみすえたまちづくりの視点

近い将来において町の人口は5万人を超えることが予想されています。SDGsの理念を取り入れ、持続可能な地域社会の実現に向けた、まちの成長や発展をめざす計画を策定します。



3. 計画の構成・期間

(1) 計画の構成

総合計画は、「基本構想」、「基本計画」で構成されます。

■ 基本構想

町民と行政の共通の目標として、まちづくりの方向性を基本理念とまちの将来像によって明らかにし、それを達成するためのまちづくりの目標（施策の大綱）を示すものです。

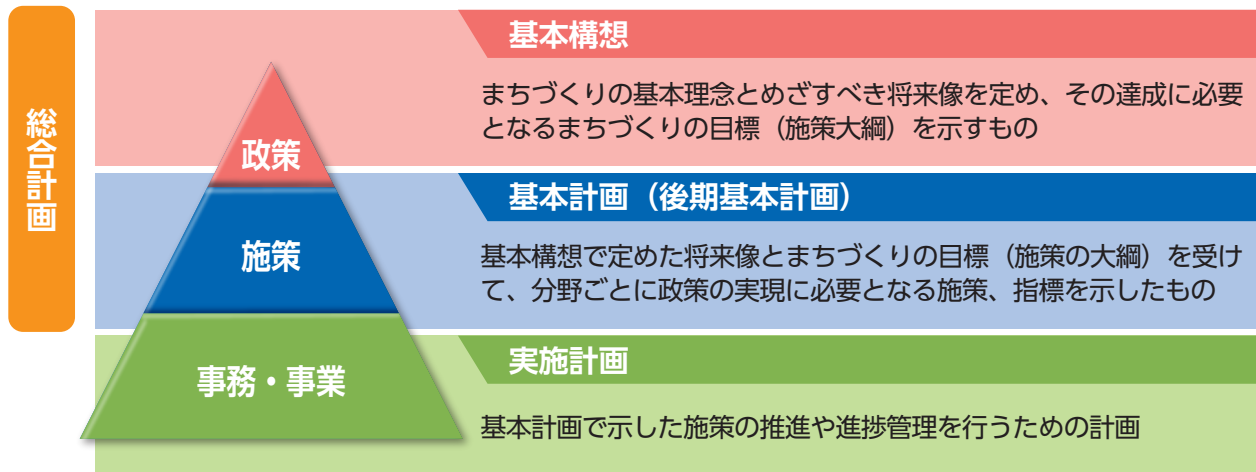
■ 基本計画

基本構想で定めた将来像とまちづくりの目標（施策の大綱）を受けて、その実現に必要な施策を分野別に体系化し、各施策の展開方針、指標などを示すものです。

(2) 計画の期間

第5次総合計画において、基本構想の計画期間は、2016（平成28）年度から2025（令和7）年度までの10年間とします。また、今回策定する後期基本計画は、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度の5年間とします。

■ 第5次総合計画の構成と期間



	前期					後期				
	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和2	2021 令和3	2022 令和4	2023 令和5	2024 令和6	2025 令和7
基本構想	計画期間（10年間）									
基本計画	前期基本計画（5年間）					後期基本計画（5年間）				
実施計画	実施計画（計画期間：1年間）									

基本計画で掲げた施策を実現するために、実施計画を作成します。

実施計画は、各年度の予算編成や事業執行の具体的な指針となるものです。計画期間は1年間とし、年度ごとにPDCAサイクルにより見直し・改善を加えながら、次年度以降の事務事業に反映させることにより実効性を確保します。

■行政経営マネジメント（PDCAサイクル）



1. まちづくりの基本理念・まちの将来像

第5次粕屋町総合計画では、まちづくりの基本理念とまちの将来像を次のように定めています。

【まちづくりの基本理念】

太陽と緑のまち

都市と自然が調和し、身近に自然を感じながら、ゆとりある生活空間の中で、町民一人ひとりが誇りと愛着を持って暮らせる「太陽と緑のまち」をまちづくりの基本理念とします。

協働でつくる安心のまち

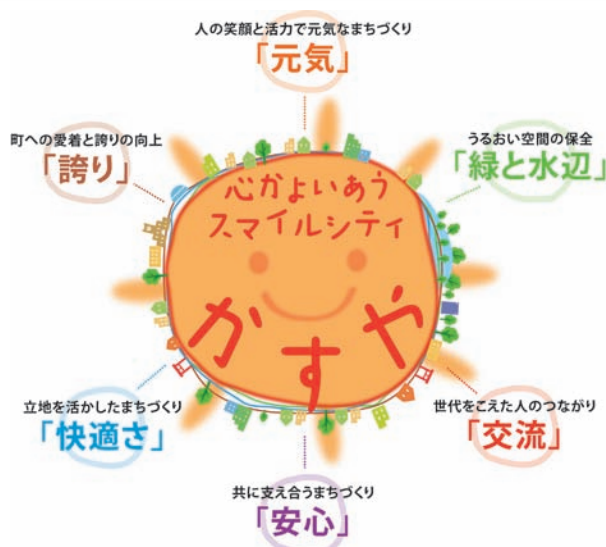
町民誰もが安心した暮らしを営むために、町民、地域と行政がお互いに役割と責任を担い、ともに力をあわせて、まちを創造する「協働でつくる安心のまち」をまちづくりの基本理念とします。

【まちの将来像】

まちづくりの基本理念である「太陽と緑のまち」「協働でつくる安心のまち」を実現していくためには、豊かな自然と快適な都市機能との調和を図りながら、町民の安全で安心な暮らしを支える住みよい生活空間を創り出し、これまで以上に人と人が思いやりの心でつながり、互いに支え合い、町民が主体となった地域社会を実現し、誰もが粕屋町に住み続けたいと思うまちをめざします。

そして、粕屋町への愛着と誇りがますます高まり、次世代を担う子どもたちに笑顔があふれる明るい未来を引き継ぐことをめざし、第5次総合計画のまちの将来像を次のように掲げます。

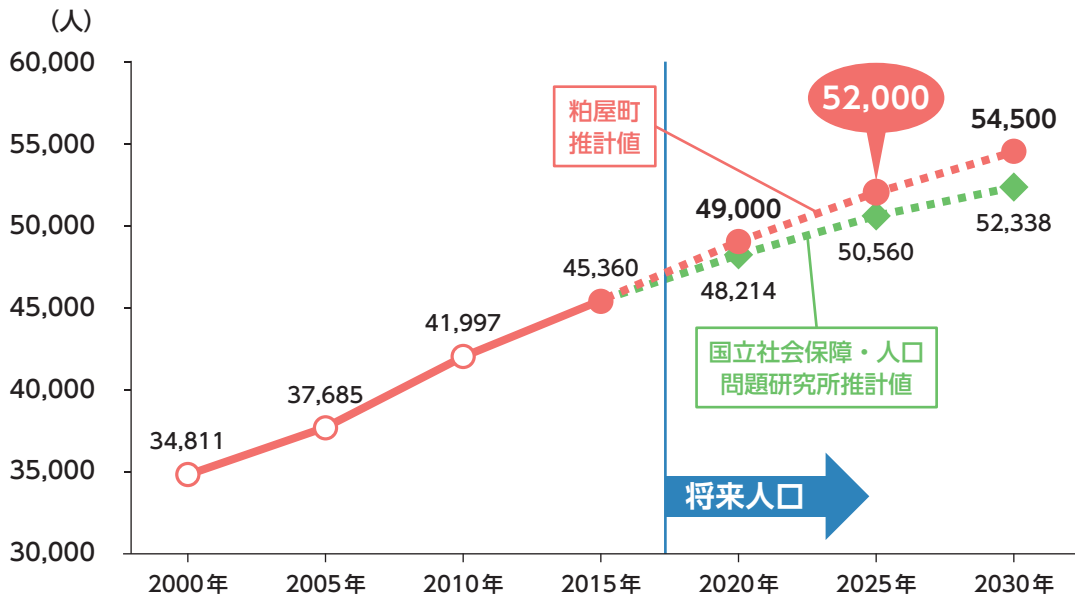
心がよいあう スマイルシティかすや



2. 粕屋町の将来フレーム

第5次粕屋町総合計画では、計画的な土地利用の促進、地域資源を活かした産業の活性化による雇用の創出、安心して子どもを産み育てられる子育て支援など、定住化を促進する施策を展開し、2025（令和7）年の将来人口フレームを52,000人としています。

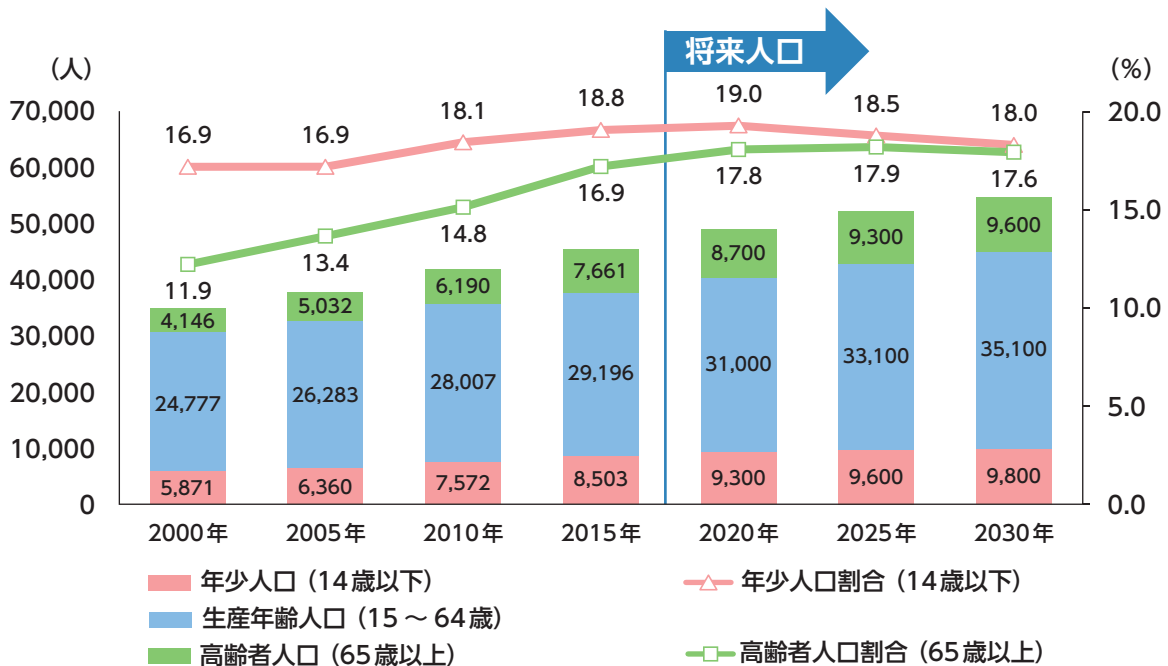
■総人口の将来推計



資料：国勢調査（2000年～2015年）

粕屋町推計値（2020年～2030年）は、住民基本台帳に基づいて推計

■将来の年齢別人口割合



資料：国勢調査（2000年～2015年） ※総人口は年齢不詳人口を含むため、年齢別人口の合計とは一致しない

粕屋町推計値（2020年～2030年）は、住民基本台帳に基づいて推計



3. まちづくりの目標（施策の大綱）

第5次粕屋町総合計画基本構想では、まちづくりの基本理念、まちの将来像を実現するための分野別の政策の方向性として、4つのまちづくり基本目標を定めています。

後期基本計画でも、この4つのまちづくりの基本目標をめざした、施策の展開を行うものです。

基本目標 1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち

地域のつながりや地域社会が果たす役割の重要性が再認識される中で、町民、地域と行政が相互に連携し、地域課題を解決する地域力の強化を図ります。

家庭、学校と地域が互いに信頼し合う連携の中で、次世代を担う子どもたちが、それぞれの個性を伸ばし、たくましく生きる力と豊かな人間性を育むまちをめざします。

また、先人たちが築き上げた歴史と文化を次世代に引き継ぐとともに、町民一人ひとりが生涯にわたり、生きがいを持って身近に学び、交流の輪が広がるまちをめざします。

基本目標 2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち

計画的な土地利用をさらに進め、身近に自然を感じながらも町民の生活を支える都市機能の充実を実感でき、安心して快適に暮らすことができるまちづくりを進め、定住促進を図ります。

また、地域の資源や特性を活用し、地域ブランドや産業の活力を創出するまちづくりを進め、粕屋町の魅力を一層高めるとともに、町内外へのシティプロモーション活動を進め、活力あるまちをめざします。

基本目標 3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち

高齢者も子どもも、障がいのある人もない人も、すべての町民が住み慣れた地域の中で、地域社会の一員として、健康で自分らしく充実した生活を安心して送ることができる、互いに支え合い、ともに生きる地域社会の実現をめざします。

また、安心して産み育てられる環境の充実を図り、子育て世代が住み続けたいと思うまちをめざします。

基本目標 4 健全で持続可能な行政経営をめざすまち

限りある経営資源で、社会情勢の変化や多様化する町民ニーズを的確に捉えた改革を進めるために、行政の経営力を強化し、質を重視した行政サービスを実現するとともに、持続可能な行政経営を進めます。

1. まちづくりのスマイル指標の評価

第5次粕屋町総合計画前期基本計画では、総合指標として「まちづくりのスマイル指標」を設定し、まちの将来像「心かよいあう スマイルシティかすや」の実現に向けたまちづくりに取り組んできました。

前期基本計画における「まちづくりのスマイル指標」の達成度については、実感指標は、すべての指標で計画策定時の当初値を上回っています。また、客観指標は、社会増加率は目標値を達成しましたが、出生率は目標値を下回る結果となっています。

■まちづくりのスマイル指標

実感指標

指標／内容	当初値 (H27)	実績値 (R1)	目標値
■ 幸せ指標			
粕屋町に暮らしていて幸せだと思う町民の割合	47.9%	53.9%	↑
粕屋町に愛着を感じている町民の割合	60.0%	62.7%	
■ 住みよさ指標			
今後も粕屋町に住みたいと思う町民の割合	82.2%	84.8%	↑
粕屋町は住みやすいと思う町民の割合	79.1%	83.2%	
■ つながり指標			
地域で人と人とのつながりがあると思う町民の割合	65.6%	69.6%	↑
■ 活力指標			
粕屋町は活力ある元気なまちだと思う町民の割合	67.1%	71.1%	↑
■ 健やか指標			
粕屋町は健康に暮らせるまちだと思う町民の割合	76.4%	87.1%	↑

客観指標

指標／内容	当初値 (H25-26)	実績値 (H26-R1平均)	目標値
出生率（人口に対する出生数の割合）	16.20%	14.23%	16.20%
社会増加率（転入、転出を要因とする人口増加の割合）	0.25%	0.44%	0.31%



2. 前期基本計画の基本施策の達成度

前期基本計画を構成する全30基本施策の達成度を示す73の成果指標（実感指標・客観指標）のうち令和元年度末時点で目標値を達成する見込みの指標は41件（56.2%）となっています。

基本目標別にいると基本目標2の生活基盤・環境分野については、達成している指標の割合が多い一方、基本目標1の地域づくり・防災防犯・教育分野、基本目標4の行政分野では未達成の指標の割合が多い結果となっています。

■基本施策の成果指標（実感指標・客観指標）の達成状況

（令和2年3月末現在）

施策項目	○ 目標値を達成	△ 当初値を上回るが 目標値は未達成	× 目標値は未達成で 当初値を下回る
基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	11件 (47.8%)	3件 (13.0%)	9件 (39.1%)
基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち	14件 (70.0%)	4件 (20.0%)	2件 (10.0%)
基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち	12件 (57.1%)	4件 (19.0%)	5件 (23.8%)
基本目標4 健全で持続可能な行政経営をめざすまち	4件 (44.4%)	3件 (33.3%)	2件 (22.2%)
合計	41件 (56.2%)	14件 (19.2%)	18件 (24.7%)

※各施策の達成状況は「資料編」基本計画の指標に掲載しています。

1. 人口減少社会・超高齢社会の到来

わが国の総人口は、2008（平成20）年をピークに減少局面に入り、2060（令和42）年には8,674万人と1億人を割り込み加速度的に減少が進むと見込まれています（国立社会保障・人口問題研究所推計）。また、全国の高齢者人口は、2018（平成30）年には3,557万人を超え、高齢化率は28.1%と過去最高となっています。こうした人口減少社会・超高齢社会の到来は、経済活動の縮小、地域コミュニティの崩壊、社会生活基盤の劣化など、さまざまな影響を及ぼすことが懸念されており、国を挙げて地方創生の取組が進められています。

粕屋町の人口は出生率も高く、今後も増加傾向が見込まれる一方、高齢化が進むことが予想されます。今後も子どもが安心して産み育てられる環境の整備を進めるとともに、更なる高齢化に備えた、高齢者が住み慣れた地域で安全・安心に暮らせるまちづくりも必要となっています。

2. 持続可能な開発目標（SDGs）に向けた取組の加速化

2015（平成27）年に国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済、社会及び環境をめぐる広範な課題に対して統合的に取り組むこととしています。

わが国においては、「あらゆる人々の活躍の推進」や「健康・長寿の達成」、「成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション」など8つの優先課題を掲げ、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者をめざす」こととしています。

粕屋町においても、SDGsの考えを取り入れた「持続可能なまち」の実現をめざし、経済、社会、環境が連動した課題解決に向けた取組を進めていく必要があります。





3. 甚大化する自然災害や感染症などのリスクへの対応

近年、地球温暖化に伴う大規模風水害や地震災害といった自然災害が多発化し、甚大化しています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大といった、今までの常識では予測不可能なリスクが日常生活に潜んでいることを実感する機会が増えており、こういったリスクに対応した危機管理体制の構築が急務となっています。

また、わが国では、高度成長期以降に大量に整備されたインフラの老朽化が進んできていることから、自然災害から安全を確保するために、インフラの適切な維持管理・更新による国土の強靱化が必要となっています。

粕屋町においても、これまでの大規模風水害の被災を教訓とした防災体制の強化、インフラの強靱化による減災対策、避難体制の見直しが必要となっているほか、感染症をはじめとしたあらゆるリスクへの対策が重要な課題となっています。

4. 働き方改革をはじめとする誰もが活躍できる社会の推進

わが国は、「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」「育児や介護との両立など、働く人のニーズの多様化」などの状況に直面しています。こうした中、イノベーションの実現などによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくることが重要な課題となっています。「働き方改革」は、この課題の解決のため、働く人の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く人一人ひとりがより良い将来の展望を持てることをめざしています。

粕屋町は福岡市などへ就業する人が多い傾向にありますが、町内での多様な働き方の支援により、女性や高齢者などが柔軟で働きやすい環境づくりを拡大させ、安定した労働力を確保していくことが重要となっています。

5. 社会経済のグローバル化と多文化共生社会の進展

グローバル化の進展によりさまざまな分野における国際競争が激化しており、私たちの生活においても大きな影響が生じています。このような状況の下、国内においては、堅調に増加する訪日外国人によるインバウンド消費が拡大するとともに、増大する海外需要を背景とした輸出の拡大や海外進出などにより、経済活動の収益基盤拡大が図られています。

また、生産年齢人口の減少による労働力不足を背景に、国内企業の担い手として大きな力となっている外国人労働者の増加も顕著となっており、この傾向は今後も続くと考えられています。文化や生活様式の違いをお互いが認め合い、日本人も外国人も誰もが共生できる社会づくりが求められています。

粕屋町においても、これからのグローバル社会で活躍する人材育成などを進めるとともに、外国人など多様な価値観を持った人々が豊かに暮らせる多文化共生社会に向けた取組が求められています。

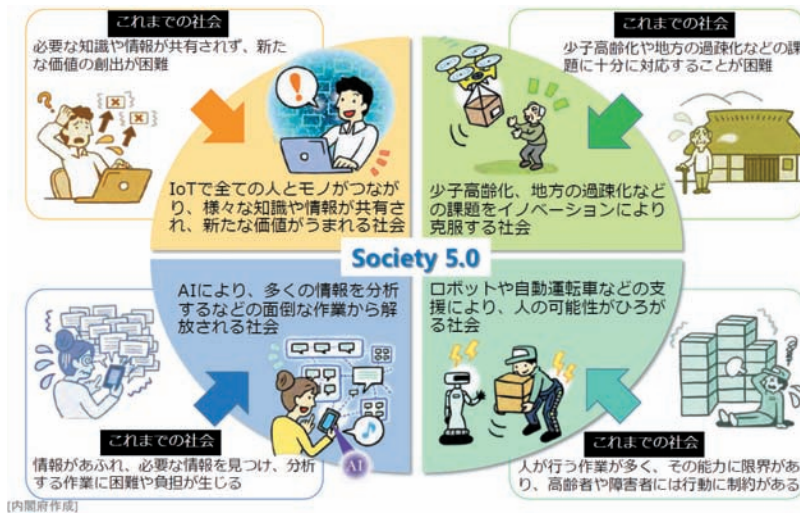
6. Society5.0 の実現による地域社会の課題解決の実現

国においては、2013（平成 25）年より「ICT 成長戦略」を掲げ、社会実装戦略、新産業創出戦略、研究開発戦略の 3 つの柱を設定し、超高齢社会への対応や防災対策など、各種課題に対応するために、IoT、ビッグデータ、AI、ロボット・センサーなどのイノベーションを、あらゆる産業や社会生活に取り入れた技術革新を戦略的に進め「Society5.0」の実現をめざしています。こうした「Society5.0」の進展は、民間企業による産業革新のみならず、医療や教育、買い物支援サービスなど、人々の暮らしにおいて地理的・時間的制約を取り除いた地域社会の課題解決への影響を及ぼすことが期待されています。

また、行政分野においても ICT を活用した利便性向上や行政事務の効率化が進められており、マイナンバー制度の導入・活用などにより、利便性の高い行政サービスの提供や業務効率化・省力化に向けた取組が求められています。

粕屋町においても、町民生活をより豊かにしていくため、IoT、AI などの技術を活用するとともに、学校教育における個別に最適化された学校 ICT 環境の整備、官民によるオープンデータプラットフォームの構築など、あらゆる産業や社会生活、行政サービスに ICT を積極的かつ最大限に取り入れていく必要があります。

【Society5.0 で実現する社会】



7. 協働のまちづくりの推進

高齢化が進む中、高齢者の単身世帯が増加しており、介護などの社会福祉の面での需要が高まっています。一方、地方財政が厳しさを増す中で公的なサービスの限界もあり、地域コミュニティを再構築するとともに支え合う社会を築くことが求められています。

また、精神的な豊かさの追求に加えて、ボランティアなどによる住民の社会貢献活動のほか、企業や NPO など地域づくりに関わることで、地域コミュニティの中での豊かさにつながる協働の取組が一層重要となってきています。

粕屋町においても、今後の持続的な社会をつくるうえで、地域社会における町民・企業・団体との協働によるまちづくりの重要性は高まっており、町民の価値観やライフスタイルの多様化にあわせ、さまざまな町民による多面的なコミュニティや交流の場づくりを展開することで、町民同士がつながり、ともに支え合う地域力を高める取組が重要となっています。

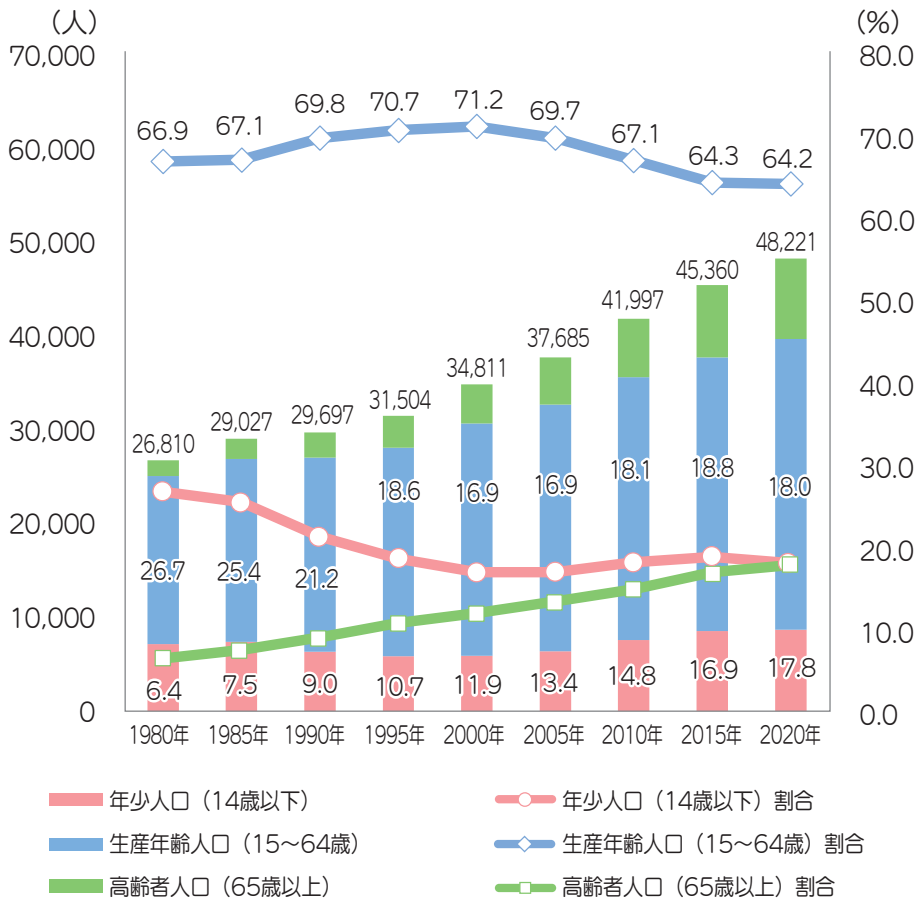
1. 統計データからみた粕屋町の現状と課題

(1) 人口

人口の増加傾向が続き、高齢化の進行も遅い

全国的な人口減少、少子高齢化が進む中、本町の人口は増加しており、今後も増加していくことが予測されています。高齢化は徐々に進行していますが、全国平均と比べ低い数値で推移しています。

■年齢3区分別人口の推移

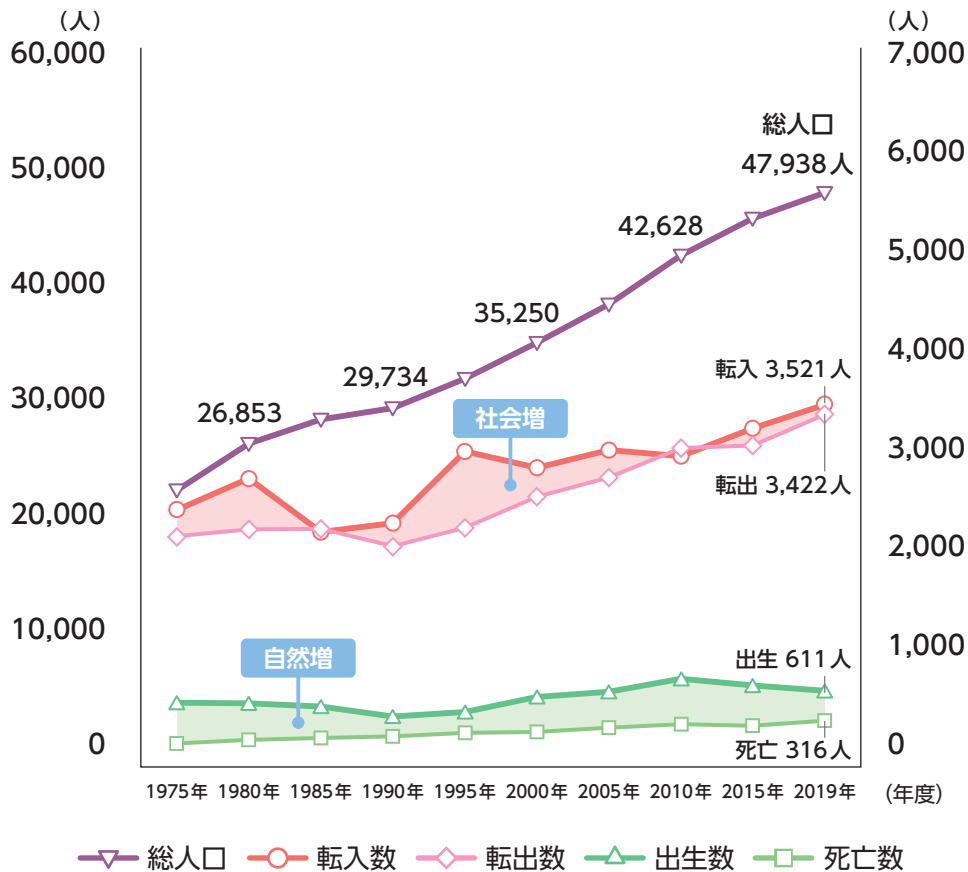


資料：国勢調査（1980年～2015年）
住民基本台帳（2020年9月末）

出生数と転入数が多く、近隣市町間の移動率も高い

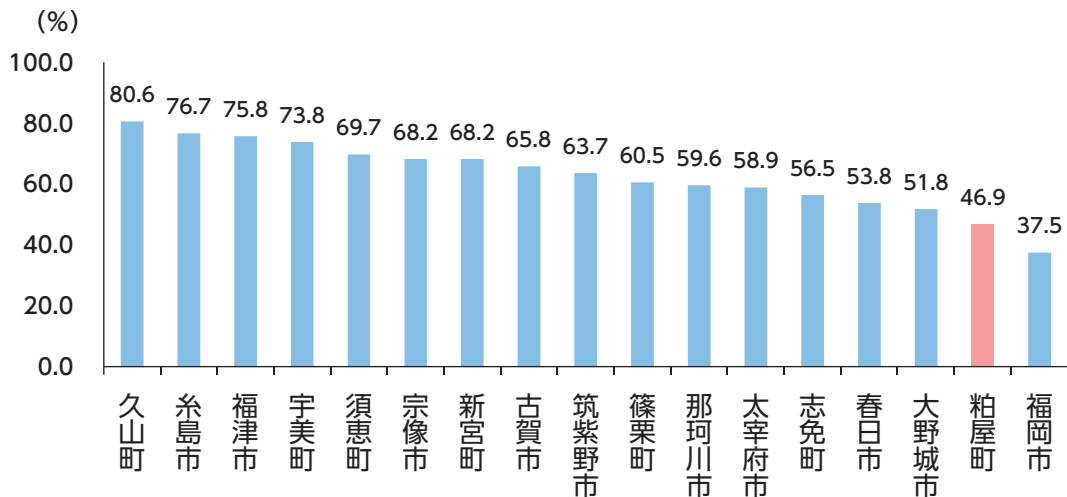
出生数の増加（自然増）と福岡市を中心とした転入者の増加（社会増）が人口増加の大きな要因となっています。また、近隣市町間の移動率（転入率・転出率）が高く、持ち家率は県内下位となっていることから、人口の流動性が高いまちとなっています。

■人口及び人口動態の推移



資料：住民基本台帳

■持ち家率の福岡都市圏比較



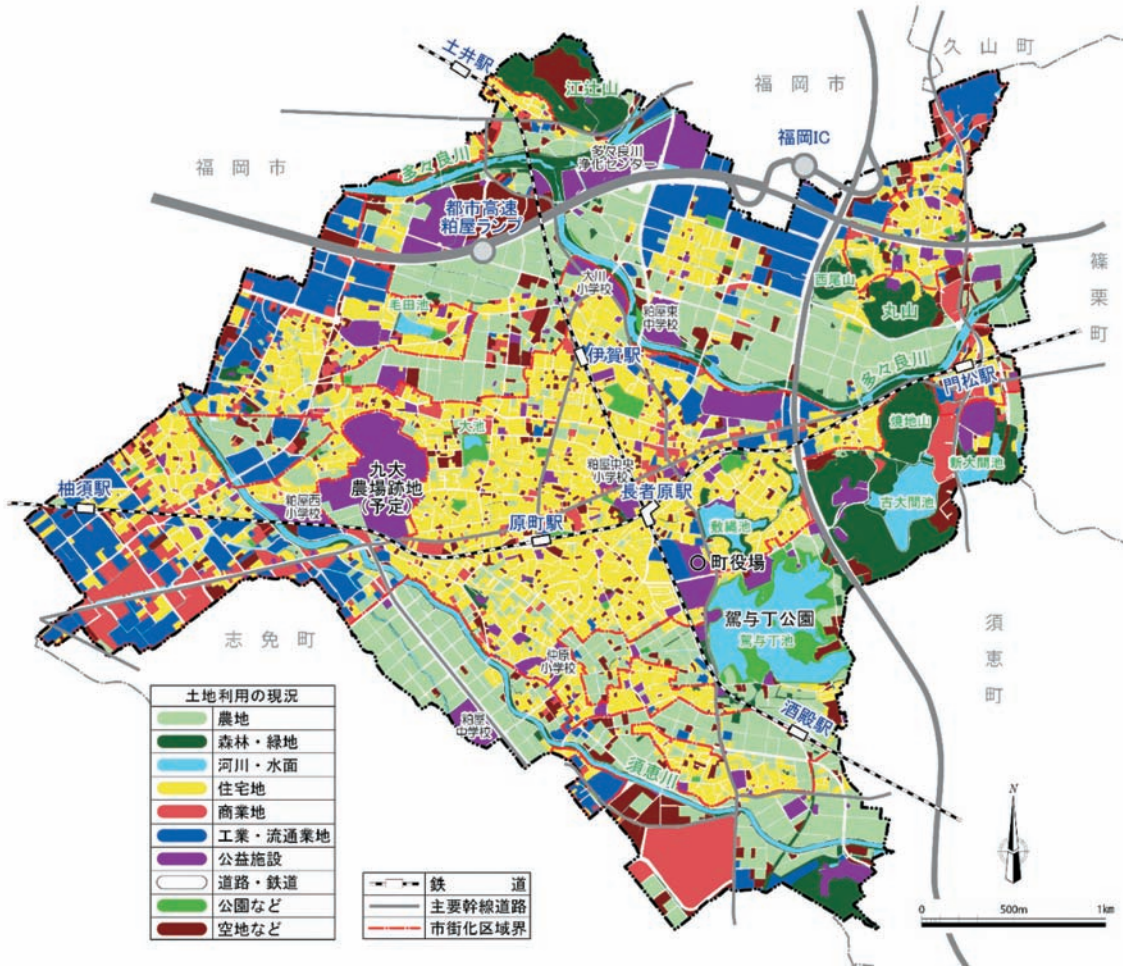
資料：国勢調査（2015年）



(2) 土地利用

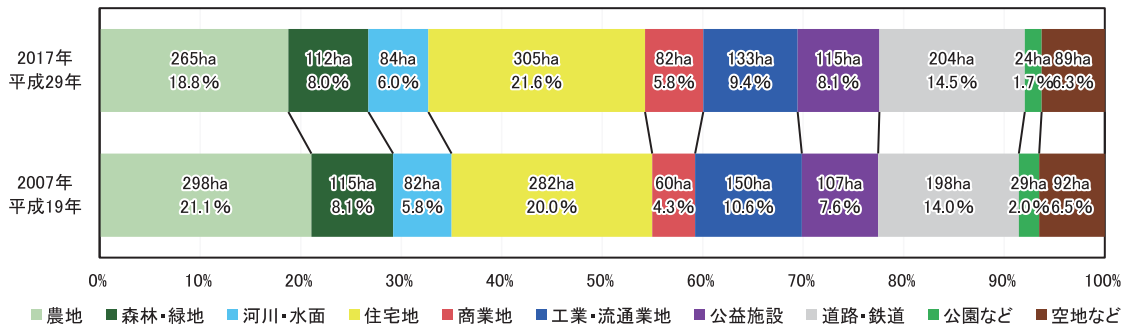
福岡市のベッドタウンとして都市化が進み、町の中心部に住宅地が広がり、北部と西部には流通業施設など工業用地が立地しています。住宅地や商業用地が増加する一方、農地が減少しています。

■土地利用の現況図 (2017年)



資料：粕屋町都市計画基礎調査

■土地利用面積の増減 (2007年、2017年)



資料：粕屋町都市計画基礎調査

序
論

基本計画

基本目標1

基本目標2

基本目標3

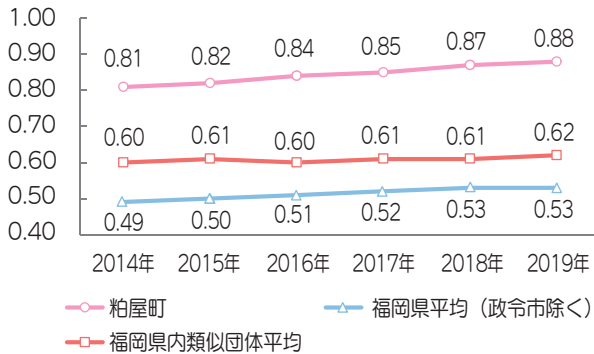
基本目標4

資料編

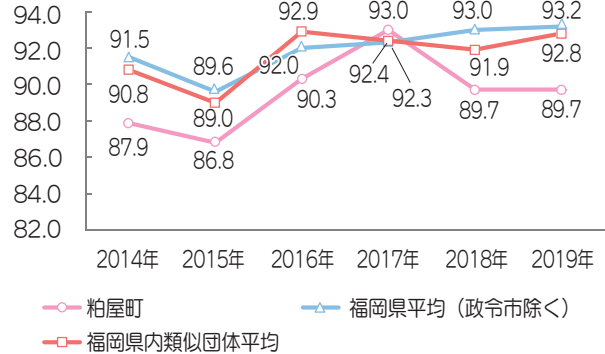
(3) 財政

財政力指数は福岡県平均、福岡県内の類似団体平均に比べ健全な値を示しています。実質公債費率及び将来負担比率は改善していますが、財政の柔軟性をあらかず経常収支比率は、依然として高い値を示しており、財政の硬直化が進んでいる状況です。

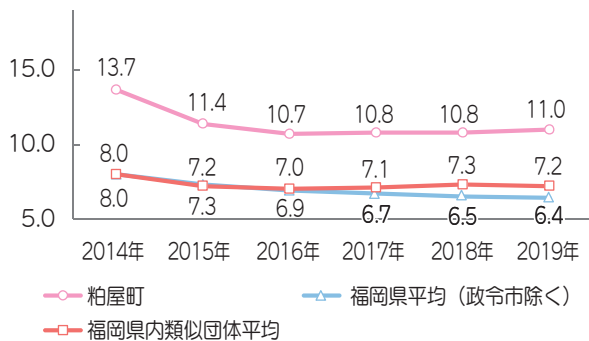
■財政力指数



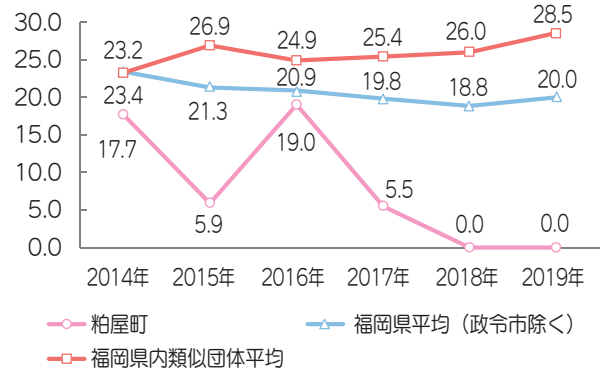
■経常収支比率



■実質公債費比率



■将来負担比率



類似団体	国勢調査の情報をもとに、市町村を人口と産業構造により分類したものです。類似団体を比較することで、自町の財政状況の特徴などを把握することが可能になります。粕屋町が属する類似団体には、宇美町・篠栗町・志免町・須恵町・新宮町・水巻町・岡垣町・筑前町・広川町、福智町などがあります。
財政力指数	自治体の財政力をあらかず指標です。1に近い(あるいは1を超える)ほど財政に余裕があるとされています。標準的な状態における地方税などの収入を標準的な行政を行った場合の財政需要額で除して得た数値です。この指数が1を超える団体は、地方交付税の不交付団体となります。
経常収支比率	自治体の財政構造の弾力性をあらかず指標です。この比率が低いほど政策的に使えるお金が多くあることを示しています。人件費や扶助費、公債費など縮減することが容易でない経常的に支出される経費が、地方税や地方交付税などの経常的に収入される一般財源に占める割合を示しています。
実質公債費比率	自治体の財政状況の健全度をあらかず指標のひとつです。地方債の元利償還金に充てる一般財源の割合で、18%以上になると地方債を起債するのに県の許可が必要となります。
将来負担比率	自治体の財政状況の健全度をあらかず指標のひとつです。将来負担すべき実質的な負債額が、自治体の一般財源の規模に占める割合を示したもので、市町村で早期健全化基準(350%)を上回る場合は「財政健全化計画」を定める必要があります。



2. 町民意識調査からみた粕屋町の現状と課題

(1) まちづくりの目標（施策の大綱）に基づく改善度、満足度、重要度の整理

町民意識調査結果をもとに、町の施策に対する町民の改善度、満足度、重要度についてまちづくりの目標（施策の大綱）に基づき、整理しました。

■町民意識調査からみたまちづくりの目標（施策の大綱）の改善度・満足度・重要度の整理

・全30施策について、町民意識調査の結果から改善度、満足度、重要度を算出し高い順に順位を記載しています。

[改善度] 各施策の5年前と比べて改善されている評価の高さを示しています。

[満足度] 各施策の現在の満足している評価の高さを示しています。

[重要度] 各施策の重要だと思う評価の高さを示しています。

・上位1～5位の施策を 、下位26～30位の施策を で色表示しています。

・中位6～25位については、改善度、満足度、重要度をそれぞれの平均値を基準値とし、平均値より高い施策を 、平均値より低い施策を で色表示しています。

	施策の大綱	改善度	満足度	重要度
基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	1 誰もが参加・交流できる地域活動の支援	5	8	20
	2 人と地域が輝くまちづくり活動の推進	20	19	26
	3 災害に強い地域社会の実現	3	15	2
	4 事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現	21	29	1
	5 子どもたちの生きる力を育む教育の推進	10	18	9
	6 地域ぐるみで育む子どもたちの健全な育成	14	14	14
	7 ライフステージに応じた学びと交流の推進	6	9	21
	8 郷土を愛し、地域の歴史と文化を継承する社会の実現	23	11	30
基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち	1 自然と調和した都市空間の創造	11	10	25
	2 緑と水辺に囲まれた潤いある暮らしの創造	4	3	15
	3 安全で快適な道路ネットワークの充実	13	30	4
	4 安全で快適な生活を支える交通環境の創造	12	23	5
	5 安全で安心な水源の確保と水環境の基盤強化	9	1	11
	6 次世代に継承する自然環境の保全	24	13	23
	7 環境負荷の少ない循環型社会の創造	17	5	13
	8 いのちを守り育む食と農の創造	25	16	24
	9 地域に活力をもたらす商工業の振興	30	28	28
基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち	1 健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進	1	2	7
	2 安心して子育てできる環境づくりの推進	7	4	6
	3 子どもの健やかな成長を支える支援の充実	15	6	17
	4 元気高齢者の活躍を促す環境づくりの推進	18	7	16
	5 住み慣れた地域での生活を支える支援の充実	22	17	10
	6 生きがいを感じ社会参加を促す環境づくりの推進	26	22	27
	7 地域で安心して暮らせる環境づくりの推進	29	24	22
	8 人権と平和を尊重し合う地域社会の確立	27	21	29
	9 ともに支え合う地域福祉の推進と社会保障制度の運営	28	20	18
基本目標4 健全で持続可能な行政経営をめざすまち	1 まちの魅力を高める情報発信の推進	2	12	12
	2 簡素で合理的な行政運営の強化	8	25	8
	3 持続可能な財政基盤の強化	16	27	3
	4 連携して取り組む広域行政の推進	19	26	19

(2) 今後のまちづくりに対するニーズが高い重点施策

30 施策の全体の中で、5年前と比べ改善された評価（改善度）が高い施策は「健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進」、次いで「まちの魅力を高める情報発信の推進」となっています。また、現状の満足度の高い施策は「安全で安心な水源の確保と水環境の基盤強化」、次いで「健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進」「緑と水辺に囲まれた潤いある暮らしの創造」となっており、健康づくりの分野については、改善され、満足度が高い結果となっています。

一方、30 施策全体の中で最も満足度の低い施策は「安全で快適な道路ネットワークの充実」、次いで「事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現」となっています。また、最も重要度の高い施策は「事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現」、次いで「災害に強い地域社会の実現」となっており、町民の安全・安心に対するニーズが高いことがわかります。

「防災」「防犯」「交通安全」などの安全・安心に関する分野に対するニーズが高い

■町民意識調査からみた今後のまちづくりのニーズが高い施策の評価

【改善度の高い施策】

健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進
まちの魅力を高める情報発信の推進
災害に強い地域社会の実現
緑と水辺に囲まれた潤いある暮らしの創造
誰もが参加・交流できる地域活動の支援
ライフステージに応じた学びと交流の推進
安心して子育てできる環境づくりの推進

【満足度の高い施策】

安全で安心な水源の確保と水環境の基盤強化
健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進
緑と水辺に囲まれた潤いある暮らしの創造
安心して子育てできる環境づくりの推進
環境負荷の少ない循環型社会の創造
子どもの健やかな成長を支える支援の充実
元気高齢者の活躍を促す環境づくりの推進

【満足度の低い施策】

安全で快適な道路ネットワークの充実
事故や犯罪の起こりにくい地域社会の実現
地域に活力をもたらす商工業の振興
持続可能な財政基盤の強化
連携して取り組む広域行政の推進
簡素で合理的な行政運営の強化
地域で安心して暮らせる環境づくりの推進

【重要度の高い施策】

事故や犯罪の起こりにくい地域社会の実現
災害に強い地域社会の実現
持続可能な財政基盤の強化
安全で快適な道路ネットワークの充実
安全で快適な生活を支える交通環境の創造
安心して子育てできる環境づくりの推進
健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進

SWOT分析とは

粕屋町の内部要因（強みや弱み）と町を取り巻く社会動向の外部環境（機会と脅威）の組み合わせから、今後の粕屋町の取り組むべき方策を導く手法です。

1. まちづくりをめぐる「内部要因」と「外部環境」

内部要因

強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"> ○都市空間と豊かな自然環境とのバランスのとれたまち ○大型商業施設が立地する買い物の利便性の高いまち ○全国でも高い合計特殊出生率、子育てしやすいまち ○JR篠栗線（福北ゆたか線）とJR香椎線、国道201号、福岡都市高速道路4号線、九州自動車道が走る交通利便性 ○町民の憩いと自然のふれあいの場である駕与丁公園 ○サンレイクかすや、かすやドーム、粕屋フォーラム、かすやこども館などの生涯学習・スポーツ施設や子育て支援拠点の充実 ○阿恵官衙遺跡をはじめとする歴史遺産 	<ul style="list-style-type: none"> ○町民のまちづくり活動への参加意識の低下 ○慢性的な交通渋滞や事故発生リスクの増加 ○保育所、学童保育所の待機児童の増加 ○町のシティプロモーションが不十分 ○公共施設の老朽化による財政負担の増加 ○農業従事者の高齢化による担い手不足 ○中小企業における経営者の高齢化と後継者不足

SWOT

外部環境

機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"> ○産業、防災・減災、医療、行政などの分野におけるロボットやAIなどを活用したSociety5.0の進展 ○地方創生による地域活性化 ○女性活躍推進法によって広がる女性活躍推進の取組 ○一億総活躍社会の実現に向けた働き方改革の推進 ○国際社会における「誰一人取り残さない」社会の実現に向けたSDGsの推進 ○脱炭素社会の実現など、地球規模での環境問題への意識の高まりと取組の拡大 ○外国人労働者の拡大などによる多文化共生社会の到来 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国的な人口減少、少子・高齢化の進展 ○若年層の地方圏から東京圏への人口の流出 ○大規模化、多発化する自然災害 ○新型コロナウイルスなどの新たな感染症のリスク拡大 ○サイバー犯罪の増加と犯罪手口の高度化・多様化 ○ライフスタイルの多様化による地域コミュニティの希薄化 ○道路インフラ、公共施設などの社会資本ストックの老朽化 ○TPPなど貿易自由化、経済のグローバル化の拡大 ○一人暮らし高齢者の増加、孤立化・引きこもり問題の顕在化

2. クロス分析からみえてくる「まちづくりの政策テーマ」

